

## エピソード45

「先生が、子どもの前で間違えたからといって謝るなんてびっくりしました。」



なみちゃん

小学校教師として25年以上の経験があります。  
エデュサポネットのファシリテーターです。



小学校の高学年を担当していた、30代半ばの経験をお聞きします。

参観日の授業中に、私が、かなり大きな間違いをしました。子どもにそれを指摘されました。

最初は「？」と思ったのですが、よくよく見直すと、たしかに私の間違いでした。





それで、先生はどうしたのですか。

子どもたちに「ごめんね、先生が間違っていた。申し訳ないね」と誤りました。

子ども達からは「だから、何回も言ったのに」とかの声も聞かれました。私の間違いは事実だったので、私が謝罪して授業を進めました。





参観していた保護者も一部始終を見ていたのですね。  
保護者のことは気になりませんでしたか？

そうですね、たしかに保護者の沢山の眼がありました。

若い頃だと、保護者のことはとても気になったと思います。でも、そのときはそれほど気にもとめず授業を続けました。





授業参観の後は、保護者懇談会があると思いますが、保護者の様子はいかがでしたか。

はい、授業中の間違いについて少しだけ話題になりました。子どもが教師の間違いを指摘できるとか、

私が間違いを訂正して授業を進めたことを好意的に受け止めてくれていたように、私は思いました。





そうでしたか、保護者は好意的に受け止めてくれたんですね。

懇談後に、あるお母さんが私の近くに寄ってきて、先生、今日はありがとうございますと言ってきました。

先生が、子どもの前で間違えたからといって謝るなんてびっくりした。間違えたことを謝れる先生は素晴らしい、というのです。







先生が子どもに謝ったのを驚いた保護者がいるんですね。

私は、私が間違えたんだから謝るのが当たり前ですと答えたところ、そのお母さんは、「私は、子どもの前で間違えたとしても、

私が謝ることなんてできない、親だから大人だから、間違ったところを子どもに見せてはいけないと思っていた」というのです。





その保護者は先生が謝ったのを見て、  
考え方を見直したのですね。

「でも、先生の姿を見て、やっぱり間違っ  
たら、親だろうと大人だろうと謝ることが、  
大事なことだと思ったし、子どもに教える  
姿だと思った」と話していました。

今、考えると、私もある程度の経験を積んで  
余裕が出てきたので謝れたのかもしれない。







## なみちゃんの一言

- 大人であっても、教師であっても間違いはあります。小さな子どもに対しても、謝ることが大切です。
- 保護者の眼があるときは、保護者のことが気になって余裕がなくなり、謝ることを無意識に避けてしまうことがあるかもしれません。
- そんな時は、深呼吸をしたり等、心を落ち着けて対応しましょう。

お・し・ま・い



なみちゃん

ナレーション 浪岡美保  
(北海道教育大学大学院 修了生)

イラスト 尾上樹里  
(北海道教育大学 大学院生)